

**第五の要因：真の一つ思い**

聖書：使徒 1:14. 2:46. 4:24. 5:12. 15:25. ローマ 15:6

**I. 召会における真の一つ思いは、からだの一を実行すること、すなわち、その霊の一を実行することです——エペソ4:3-6：**

A. わたしたちがエペソ第4章4節から6節で見ることができるのは、わたしたちが一を実行することが、召会の一の属性に基づいているということです。召会の一の属性は、一つ霊、一つ主、一つ神、一つからだ、一つ信仰、一つバプテスマ、一つ望みです。

B. 召会において真の一つ思いを実行することは、一を適用することです——使徒 1:14. 2:46。

C. 一を実行することは、一つ思いにおいてです。一は実行される時、一つ思いとなります——使徒 15:25：

1. ヨハネによる福音書において、主は一を強調しましたが、使徒行伝においては、一つ思いが強調されています——ヨハネ 10:30. 17:11, 21-23. 使徒 1:14. 2:46. 4:24. 15:25。

2. 四福音書と使徒行伝を区別する目印は、百二十人の間の一つ思いです——使徒 1:14：

a. 彼らは、からだの中で一となっていました。そして彼らはその一の中で、一つ思いでひたすら祈り続けました——エペソ 4:3-6. 使徒 1:14。

b. 使徒たちと信者たちは、召会生活を実行したとき、一つ思いの中でそれを実行しました——使徒 2:46. 4:24. 5:12。

D. 一つ思いは、一の心臓、核、核心です——エペソ 4:3. 使徒 4:24. ローマ 15:6：

1. 一は肉体のようであり、一つ思いは体の中の心臓のようです。

2. わたしたちの霊的な病は、体の中の心臓の病のようです。すなわち、わたしたちの間の病は、わたしたちが十分に一つ思いを持っていないということです。こうしてわたしたちは、「心臓」に病をかかえながら、一を保持しています。

**II. 一つ思いは、わたしたちの内なる存在における調和を、すなわち、わたしたちの思いと意志における調和を指しています——使徒1:14：**

A. 使徒行伝第1章14節では、「ホモスマドン (homothumadon)」というギリシャ語が用いられており、それは一つ思いを表しています：

1. この言葉は、「ホモ (homo)」すなわち「同じ」と、「スモス (thumos)」すなわち「思い、意志、目的 (魂、心)」とから成っており、人の全存在における内側の感覚の調和を示しています。

2. わたしたちは同じ思いと同じ意志を持って、わたしたちの魂と心の中で同じ目的を持つべきです。この事は、わたしたちの全存在がかかわっていることを意味しま

す。

B. マタイ第 18 章 19 節では、「スィムフォネオ (sumphoneo)」というギリシャ語が用いられており、それは一つ思いを表しています：

1. この言葉は、「調和する、あるいは一致すること」を意味し、楽器や人の声の調和ある音を指しています。
2. 信者たちの間の、一つ思い、あるいは内側の感覚の調和は、調和あるメロディのよなものです。
3. わたしたちは、一つ思いを持つとき、神にとってメロディとなります。すなわち、わたしたちは単に文章における詩となるだけでなく、音における、声における、メロディにおける詩となります。

### III. 一つ思いを保持する要因は、使徒たちの教えです——使徒 2:42, 46 :

A. 一を実行すること、すなわち一つ思いは、使徒たちの教えにしがっていています——使徒 2:42。

B. 使徒行伝がわたしたちに告げているのは、信者たちの間に一つ思いがあったということであり、また一つ思いの中にいた者たちがみな、使徒たちの教えを堅く持ち続けたということです。

C. 使徒たちは、すべての場所で、またすべての召会で、すべての聖徒たちに同じ事を教えました——I コリント 4:17. 7:17. 11:16. 14:33 後半-34 :

1. わたしたちも、地上の至る所で、あらゆる国のすべての召会において、同じ事を教えなければなりません——マタイ 28:19-20。
2. 新約の中には、ある教えが一つの召会に対して適しており、別の召会に対して適していないという思想はありません。そうではなく、新約は、すべての召会が教えを受けることにおいて同じであったことを啓示しています——テトス 1:9。

### IV. わたしたちは一つ思いを実行するとき、一つ霊の中において、一つ魂をもつことを学ばなければなりません——ピリピ 1:27 :

A. わたしたちは霊に戻り、それから一つ霊をもってわたしたちの魂の中へと入る必要があります。それはわたしたちが一つ思いとなるためです——ピリピ 2:2, 5. 4:2。

B. もしわたしたちが真の一つ思いという要因を持つとするなら、「同じ思いの中で、また同じ意見の中で調和され」る必要があります——I コリント 1:10. 7:25, 40 :

1. 地方召会の生活で、わたしたちが一つ思いを実現することを妨げる問題は、わたしたちの意見です——マタイ 16:22-25. ピリピ 2:2. 4:2。
2. 主の働きにおいて、召会生活において、霊的な命において、最大の破壊する要因は、わたしたちの意見です——I コリント 1:10-13 前半。
3. 意見は暗やみのしるしです (ヨハネ 11:9-10)。わたしたちが主のみこころに反する意見を言い表すときはいつでも、この意見は、わたしたちが暗やみの中を歩いていることを表します。
4. 主は人の意見に基づいて決して行動しません。彼はご自身のみこころにしがって常に行動します。彼は、わたしたちの意見にしがって決して動かされることはなく、またわたしたちの意見にしがった祈りによっても決して動かされることはあ

りません—— I ヨハネ 5:14-15。

C. 一つ思いであることは、わたしたちの全存在において一であることです。このことの結果、わたしたちは、外側の語りかけにおいても一となります——ローマ 15:5-6 :

1. 一つの思いと一つの口を持つことは、わたしたちが、唯一のかしらであるキリストを持っていることを意味します。なぜなら、かしらだけが思いと口を持っているからです。わたしたちはキリストの思いをもって思うべきであり、かしの口をもって語るべきです——コロサイ 1:18 前半, ピリピ 2:2, 5. 4:2。
2. わたしたちは一つ思いであるときはいつでも、同じ事を語ります。すなわち、わたしたちは一つの口をもって語ります。
3. 一つ思いと一つの口をもつ唯一の道は、キリストに地位を与えて、わたしたちの心の中で、またわたしたちの口の中ですべてとなつていただき、それによって神の栄光が現されるようにすることです——エペソ 3:17 前半, 21。

V. 一つ思いは、新約におけるあらゆる祝福に対するマスターキーです——使徒1:14. エペソ1:3. ローマ15:29 :

- A. わたしたちは神の祝福を尊ぶ必要があり、また召会生活において、あらゆるものが神の祝福にかかっていることを認識する必要があります——エペソ 1:3。
- B. わたしたちはみな、諸召会が神の命じられた祝福を受けることを見たいのです——詩 133:3。
- C. わたしたちは召会生活を実行するとき、召会が「キリストの祝福に満ち満ちたもの」を受ける道を認識する必要があります——ローマ 15:29 :
  1. 極めて重要なのは、神の祝福が一つ思いの状況にのみ臨むことができるということ、わたしたちが認識することです。なぜなら、神は一つ思いだけを祝福するからです——使徒 2:46。
  2. わたしたちは神の祝福を受けるために、一を実行しなければなりません。一を実行する道は、一つ思いによります——使徒 4:24. 15:25. ローマ 15:6。